

6 林 業

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 新植ほだ木の管理</p> <p>(2) 2年ほだ木の管理</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新植ほだ木の管理 ○2年ほだ木の管理 ○古ほだ木の管理 ○病害対策 ○台風対策 <p>ほだ木の出来が後々の収穫を左右するため、シイタケ菌糸を原木内部にいかに速やかに蔓延させるかが重要であり、伏せ込み場をよく見回ってほだ木の状態に合った管理を行う。</p> <p>裸地伏せの場合は、笠木が薄くなったところは必ず補充を行ない、直射日光がほだ木に当たらないようにする。日光の直射はシイタケ菌糸を弱らせ、樹皮の剥離や害菌の侵入を招く。西日の差し込む方向には笠木を十分張り出す。スギ・ヒノキ人工林を伏せ込み場に行っている場合は高温多湿の状態になりやすいので、下草や灌木の刈払いを行って通風を図る。</p> <p>生木状態のほだ木は菌糸が表面近くにしか蔓延せず、うわほだになる。水分を抜いて枯込みを進行させるため、ほだ木の上と表裏が入れ替わるよう天地返しや積替えをおこなう。</p> <p>適期に伐採・葉枯しを行い、早期に植菌・仮伏せを行ったものは順調に菌糸が材内部に蔓延しているが、伏せ込み場の環境は一様でなく、場合によってはほだ化が遅れていることがある。いくつかほだ木を抜き出して木口から30 cmくらいのところを切断し、菌糸の蔓延状態(ほだ付き)を観察・確認することが大切である(右写真)。</p> <p>遅れている場合は散水し、散水できない場合は低く伏せる。ほだ場の整理は夏場の重要な作業である。間伐・枝打ちを行ってほだ木に雨が当たるようにする。</p> <div data-bbox="943 1529 1401 1883" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">ほだ付の調査状況</p>

項 目	作 業 内 容
(3) 古ほだ木の管理	<p>まだ使用できるほだ木とボロボロになって使用できない廃ほだ木を仕分け、使用できるほだ木は天地返しを行ってほだ木の水分の均一化を図る。ほだ木の上下を変えないままでは上部は水分不足になるため、きのこの発生が下方に偏るようになる。天地返しによってほだ木を余さずに使え、増収につなげることができる。また、廃ほだ木の選別と同時にほだ場の清掃を実施する。廃ほだ木は害菌や害虫の発生源となるので、ほだ場に堆積せず離れた畑や山林などに処分する。</p>
(4) 病害対策	<p>高温多湿の条件では、ほだ木の重要病害であるトリコデルマ属菌の蔓延に注意が必要である。病徴は、ほだ木の木口や樹皮の割れ目を中心に、初めは白色、後に白色の中心から緑色のカビのように広がる。この属の菌は、シイタケ菌を直接加害し、被害が大きいほだ木はシイタケの収穫は望めないなど被害が大きい。未感染のほだ木を守るために、症状が見られるほだ木はほだ場から搬出する。予防では、高温時には多湿とならないように、ほだ場・伏込み場の周辺の草刈りなどで風通しを良くすることが肝要である。症状が出たほだ木は、風通しの良い場所に置くことによって改善することがある。特に症状がひどい場合には、土中に埋設するなどの処分が必要である。</p>
(5) 台風対策	<p>8月は台風の多い季節である。風害を受けやすいほだ場は事前に遮光ネットを外す。台風通過後は伏込み場やほだ場を巡回して笠木や遮光ネットの点検を行い、復旧・補修を行う。ほだ木上に落下した枝条・落葉は撤去し、倒れたほだ木は起こして組み直す。</p>

(作成 林業研究センター)